

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 3070100296 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 浩和会 | | |
| 事業所名 | 竹の里園 | | |
| 所在地 | 和歌山市明王寺3-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年9月14日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年10月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3070100296-00&PrefCd=30&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人和歌山県認知症支援協会 |
| 所在地 | 和歌山市四番丁52 ハラダビル2F |
| 訪問調査日 | 平成25年9月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の郷公園に隣接した自然豊かな環境の下、四季折々の行事を多く取り入れながら、ゆったりと生活して頂いている。また、地域住民に開かれた施設作りのため、併設の特養中心に盛大な夏祭りを開催したり、ボランティアグループの来園や、地域の芸能大会に参加するなど、地域交流を深めている。さらに、併設の診療所や、特養勤務の看護師との医療連携が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな環境の中に立地している。職員はその人らしい生活を大切にして入居者に寄り添い、笑顔を忘れず接することを心がけており、利用者がゆったりとした気分で過ごせる生活を支援している。また、法人施設の併設診療所と連携し、医療面での安心も得られている。地域の災害時の避難場所を提供するなど地域との協力体制が築かれている。地域の芸能発表会への参加や地元の幼稚園児との交流など、地域との交流を大切にしている。法人で開催される盛大な夏祭りには多くの地域住民の参加がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所独自の理念「利用者様の立場に立ったサービス」に心がけ、管理者と職員は利用者が笑顔で暮らして頂ける為に利用者の立場に立ったサービスを追及している。 | 法人と事業所の理念を、玄関に入ったカウンターの上に掲示している。日々のミーティングでは常に利用者の立場に立った支援について話し合い、具体的なケアの統一を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 併設施設との合同夏祭りを盛大に開催し、地域の人たちと交流を図っている。また、地域の老人会主催芸能発表会に参加している。 | 年1回の夏祭りを盛大に開催、法人全体で地域交流を図っている。夏祭りは皆が楽しめるような趣向をこらし、地域住民との交流の場になっている。また地域の保育所園児との交流も定期的に行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 以前地域の方々を対象に認知症セミナーを開催し好評だったが、24年度は開催できなかったため25年度は開催を検討する。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を2ヶ月に1度開催し意見を交換している。また、運営推進委員が夏祭り等の行事に参加協力を得ている。 | ケアハウスとグループホームの運営推進会議を同時に開催している。グループホームの部として事業所としての取り組みを説明して情報の共有を図るとともに、意見や要望をサービス向上に活かせるよう努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議には、包括センターの職員に出席して頂き、情報の交流を図っている。 | 市の担当者と事業所の繋がりを持つ機会はありませんが、運営推進会議をととして地域包括支援センターと連携を密にしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員を置き、職員一同特に言葉の拘束に気を付けている。 | 身体拘束廃止委員を設置し、拘束のないケアに取り組んでいる。以前は解放していたが、外へ出ていく入居者の安全を確保することが困難で職員の気が休まることが無く、現時点では玄関は常に施錠している。 | 鍵に頼らないことを基本に、入居者の立場に立って職員間で話し合い、鍵なしで見守れる時間を増やしていけることが望まれる。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止の内・外研修に参加している。又、入浴時には、必ずボディチェックするようにしている。 | | |

【事業所名】竹の里園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在成年後見制度を利用している方がいらっしゃるの、職員も関心を持っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、十分な説明を行い理解して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や、家族交流会、運営推進会議の席上で意見を聞いたりして、気軽に話ができる人間関係を築いており意見箱を設置している。 | 家族とは来訪時に話し合う以外に年1回開催の家族交流会を意見が聞ける場としている。また、家族に対するアンケートなどの実施も行われている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | グループホーム会議などで意見や提案を聞き、日々話し合いをしている。 | 管理者も業務に携わることで、職員からの信頼も厚く、意見や提案を身近に聞くことができる。会議の中で、日々の支援の中から、気づきなどを随時話し合い運営に取り入れている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課を取り入れ、職員の向上心を育成し、又、職員の意見にも傾聴するよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 特養合同の研修委員会が毎月あり2か月に一度職員全員出席の全体研修を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 認知症支援協会に加入している。また地域のグループホームとも交流をはかっている。 | | |

【事業所名】竹の里園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用に至るまで、本人及び家族と面接の機会をつくり、趣味や好き嫌い等できるだけ把握し、サービスの開始にそなえている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申請時や入所直前の面接時に家族の要望をしっかりと聞き、入所後のケアに活かしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者、及びその家族にとってグループホームでの生活が最適であるかを家族やケアマネジャーともよく相談し決定している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員と一緒に洗濯物を干したりお茶を入れて頂く等、毎日の生活を通し、信頼関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と常に連絡を取り合い、できるだけ来園していただけるよう協力をお願いしている。又、家族にも参加していただける季節行事(花見、夏祭り、敬老会、家族交流会等)を組み入れている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の親類や知人との関係が途切れないよう、家族にも協力を依頼しているが時と共に疎遠になっている。 | 入居時は近所の友人が訪ねてくるが多かったが入居して時間が経つにつれ機会が少なくなってきた。そのため、家族、親類や知人との関係が途切れないように家族に働きかけている。 | 直接会ったり、出かけたりが困難でも、写真を見ることや、馴染みの人や場に関する会話も取り入れるなどの工夫を取り入れた支援も望まれる。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲の良い利用者が話をしたり、一緒に洗濯物をたたんだり、日常生活の中でお互い助けあえるよう支援している。 | | |

【事業所名】竹の里園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | グループホームを退所され、特養に入所された方について、移転先の職員と情報を共有し、直接的、間接的に支援関係を続けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 介護保険更新に伴う介護計画作成時に、また日々の生活を観察し、御本人及び家族に随時希望や意向を伺っている。 | 申し送り事項の記録を活用して日常の状況を観察、日常会話の中で本人の思いをくみ取り、希望等の把握に努めている。困難な利用者においては、家族、職員間で本人の思いに近づけるよう話しあっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者、御家族から、またグループホームに入居する以前の担当ケアマネや医療機関などから情報を収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人一人の日常生活を細やかに観察するよう努めており、有する能力の把握や、小さな変化にも「いつもと違うな」と気づく事が出来ている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々変化する利用者の生活(様子)に対して定期的に、そして随時最善と思われる支援を行っている。 | 日々変化する利用者の状況を記録したカンファレンス用紙を活用し、本人、家族の意向や要望も取り入れて計画書を作成している。書式に記入できていないものもあるが、随時モニタリングし、見直している。 | 職員の統一した支援を継続するために、計画書とリンクしたモニタリングの書式を職員共同のもと検討し、家族への説明にも活用できることを期待する。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日別生活記録表を日勤者夜勤者それぞれに記録している。また申し送りを口頭で伝えたりノートに記入及び閲覧を行うことで職員間で情報を共有し支援に活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の状態の変化に応じ、食事形態を随時見直し、調理器具の活用で個人個人にあわせた食事を提供している。 | | |

【事業所名】竹の里園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 福祉関係(者)などからの情報及び提案で催し物への出演を行ったりボランティアグループの来園にて催し物を観賞することが出来ている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の状態に応じ、家族と連絡を密に図り、利用者及び家族の意向を尊重し適切な医療が受けられるよう支援行っている。 | 法人施設の診療所とは連携が取れており、通院、場合によっては往診も可能であることから、かかりつけ医に希望する人が多い。相談できる認知症の専門医も確保されており、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の血圧情報を定期的に報告しており体調に変化があった時、服薬の種類が変わった時など随時報告しアドバイスを受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の情報を提供したり入院中の利用者への面会時に病院関係者と面談を行い情報を収集した。また退院に際してのアドバイスを受けようとしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者の出来事は家族に連絡、報告しており、その様な機会にも将来予測される状況を説明し職員も認識し支援を行っている。また必要に応じて、併設診療所の医師や看護師から説明して頂いている。 | 重度化や終末期については契約時に本人家族と話し合うとともに、その都度、事業所のできる対応をしている。看取りのケアは法人の主治医、看護師と連携を密にして行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に職場(チーム)単位で研修の機会を設けており様々な情報を職場(チーム)全体で共有している。又事故発生時には必ず振り返りを行い次に繋げる(活かす)よう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的(年2回)に消防署職員同席の下、避難訓練を行っている。又、他部署や地域の消防団との協力体制もできている。 | 管轄の消防署員の立ち会いで、ホーム単独で利用者も参加した消防訓練を毎年2回おこなっている。また災害時の備蓄は法人施設で管理され、地域の避難所として施設を提供する等、地域との協力体制を築いている。 | |

【事業所名】竹の里園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人の人格を尊重し、その人の立場にたった思いやりある言葉かけをに対応している。 | 入居者の人格を尊重して、気持ちを大切にしたい言葉かけを行っている。プライバシーへの配慮は認識しているが、安全確保のため、トイレはカーテンで仕切り、居室のドアには大きい透明のガラスをはめている。 | トイレ、居室を使用する入居者の立場に立ち、今一度、どのような支援が必要か職員間で話し合うことが望まれる。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事やおやつメニューを一緒に考えたり、着る洋服を出来るだけ自己決定して頂ける様働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の希望に沿った支援をしたいと思っているが、実際に一人一人のペースに合わせる事が難しい時もある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 美容師に2ヶ月に一度来ていただき、カットなどしていただいている。また、同じ衣類の着用にならないよう、職員が衣類選びにアドバイスしたり、気分転換を兼ねたおしゃれができるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立を一緒に考えたり、出来るだけ利用者と一緒に準備、片づけをするようにしている。 | 利用者と相談してメニューを決めるようにしている。食材も季節の物を使って、出来る人には職員と一緒に食事の準備等できるよう支援している。後片付けも職員と一緒にこない、大切な日課の一つとしている。 | 職員と利用者が一緒に食事をする事によって雰囲気明るくなり、食事の楽しみを共有できる語らいの場づくりが、出来る事を期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1ヶ月に2回水分摂取量をチェックしており、摂取量の少ない方には、必要に応じて、様々な種類の飲み物を提供している。また薬飲み器を活用したり、水分摂取を促している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎朝、紅茶うがいと就寝前の義歯洗浄を励行している。ご自分でできない利用者にはウェットティッシュで口腔ケアをしている。 | | |

【事業所名】竹の里園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿排便チェック表に記録し、一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握して尿意のない利用者にも時間を決めてトイレ誘導して、トイレで排泄できるように支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食材に野菜を多く使うよう心がけ、コーヒーやポカリ、好きな飲み物も提供し、水分補給に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一応男性が入浴する日と女性が入浴する日を決めているが、希望に応じてゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。 | 午後から、毎日入浴できる体制で、1人ひとりその日の気持ちや習慣に合わせてゆっくり入浴を楽しんでもらっている。入浴を拒む人には本人の気持ちを理解しながら工夫して対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人自由に、リビングのソファでくつろいだり、居室で昼寝をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者ごとの投薬一覧表を作成しており、職員はいつでもそれを見ることが出来る。薬は日付、個人ごとに分けて職員が管理し、服薬介助見守りをしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除や洗濯物等出来る方には手伝って頂き、自由に過ごしてもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 体力的に困難になってきている方もおられ、希望にそっては支援できていないがドライブや外食に出かけている。 | ミキサー食の対応してくれるレストランがあり、今まで全員で外出することが困難であったが、全員で参加できるようになった。ドライブや、近くの公園での散歩も定期的に行っている。 | |

【事業所名】竹の里園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を理解して管理出来る人は少ないが、理解出来る人は買い物等一緒に行ったとき、支払いしてもらったりしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 認知症が進行し、電話をかけられない方もいらっしゃるが、いつでも、スタッフルームから電話できるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間が広く明るく快適に過ごせるようになっている。また、空気の入れ換え、エアコンの調節等スタッフが気を配り、居心地よく過ごせるよう心掛けている。 | ゆったりと自由にくつろげる共用空間になっていて、天井中央は明かりとりと、空気の入れ替えができる構造になっている。表に面してガラス張りになっていて、リビングから外の季節感を十分感じることができる。テーブルにはさりげなく季節の花が飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 広いリビングがあり、気のあった利用者同士で自由に過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時に使い慣れた物や好みの物を、自由に持ってきて頂き居室で過ごされる時間も尊重している。 | 居室にはタンスなど、なじみの物や思い出の家族写真、ぬいぐるみなど、その人らしい落ち着いた過ごせる温かい雰囲気のある居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗濯物は安全の為、室内で利用者と一緒に干し、外に出すようにしている。トイレの場所はよくわかるよう表示している。 | | |